

グリーンカーテン 大作戦





地球から遠くはなれた
うりぞ星雲に、

ゴーヤの形をした

ゴーヤ星がありました。

緑ゆたかなその星では、
建物はすべてゴーヤの
葉やつるでおおわれていて、
住民のゴーヤたちは
みんな気持ち良〜、
快適にくららしています。



「そこをくららきつ〜、ゴーヤの星の星雲だ」
「王様、喜んで〜」
でもこのまじにすれば…?」
「それはお前が考えろ〜」 成功するまで
帰って来るんじゃないぞ〜」

ゴーヤンは宇宙船で
地球にやって来ました。
「ちえっ、王様は命令していれば
良いのだから、
いい気なもんだ。
でも調べたり
地球は温暖化が進んでいるようだ。
よし、思いついたぞ。」

作戦名は『グリーンカーテン大作戦』だ〜」





小学生の剛也(にじや)くん

涼子(りょうし)ちゃんはあんなじみ。

家が近いの。

ふたりはよく帰りがいっしょになりませう。

「涼子ちゃん、

コールドンウィークはよいが行くの。」

「お父さんの家庭菜園のお手伝いかな。

この庭、けっこう広いから、大変なのよ」

涼子ちゃんは自分の家の庭を見ながら言いました。

「ね、涼子ちゃん、庭のあとにこの、何？」

剛也くんが聞きました。

何か緑の物体が動いていたのです。

「あれ？ えい、しんせー。

コーヤがあんなほっこり…」

「あんだ、いったい何者？」

涼子ちゃんはあなをほっていたコーヤに

大きな声でたずねました。

「わたしの名前前は「コーヤ」なんです。

とても広いお庭なので、わたしももの

なえを植えておくあげようかと…(はあ)

「よけいなことしなくていいわ。

わたし、コーヤをいなの、「ニガ」から

「ニガ」って、なごみやななじみ

知ってこの名前なの。」

「食べたじゅうせんと」

「何ですって… わたしたちを食入る…

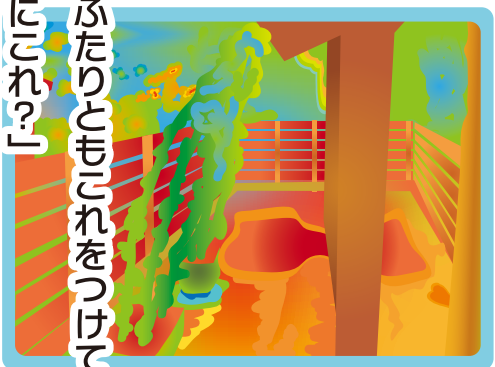
それ本当ですか。」

「大丈夫よ、わたしは食入たりしないから」

「うん、そのじゅうせいやなっしょい…。

大変だ、地球がこんなにおそろしい星だったなんて…。

王様はじゅうせを知ってこののだるじか…」



「おふたりともこれをつけてください」

「なにこれ？」

「これは温度が色でわかる

サーモグラフィコーブルです。

見ていただけ？。植物がひんやりをわけてお部屋の

エアコンは、青い色をこのようにして

「本当だ」

「温度が低くなっているんですね。」

そのようになります。エアコンでは全然ちがいますよ」

「下はまともグリーンカーテンがあるのね」

「Hのチン」

グリーンカーテンがないと

日中に部屋の中が

暑くなるのはもちろん、

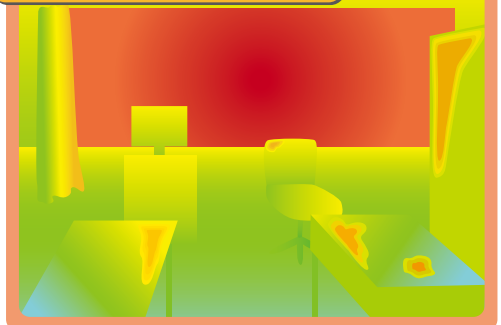
建物に熱がたまって部屋の中で

放出されてしまったため

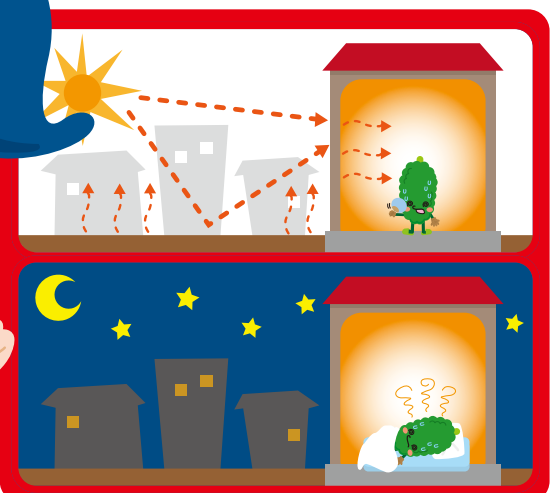
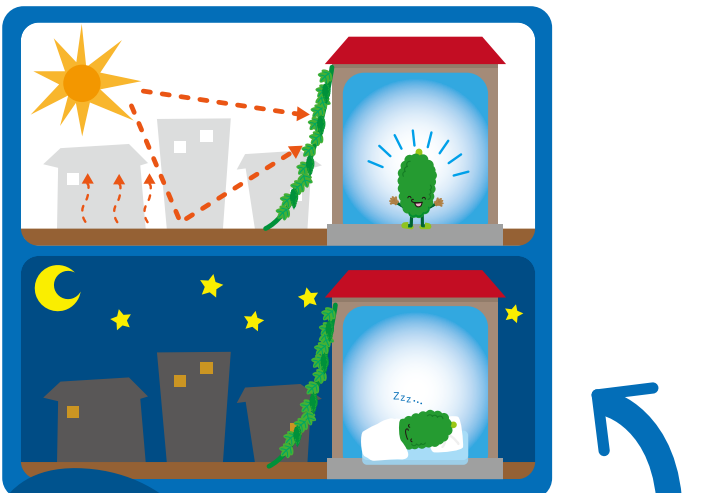
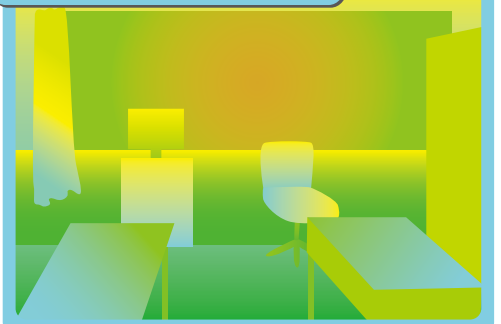
朝まで部屋の中はずっと暑い

状態が続いてしまうのです」

グリーンカーテンなし



グリーンカーテンあり



「なるほどね。」

あなたの言いたい

ことは、ね。」

植物で家をおおって、

家が熱を直接

あびないから暑くないし、

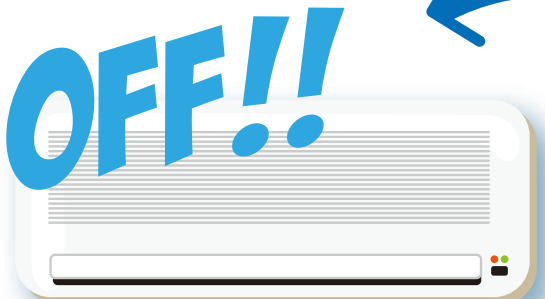
熱もたまらない。

だからクーラーを

ずっとつけて

おののまなくなる。」

「うーん、いいね...」



「省エネになって電気節約になるー」

剛せくんが大きな声で言いました。

省エネ+電気の節約!!





「その通りなのですー」

「でも本当にそんなにちがいのっ」

涼子ちゃんが聞きました。

「ちがいますとも。わたしたち植物には

じょうせん作用がありますから」

「ジヨウサンサヨウっ」

初めて聞く言葉だったので

剛世くんが聞きかえました。

「植物は熱をすいっ」

体内で水分をふくんだ

ヒンヤリした空気に変えて

外に出しているのです。

それをじょうせん作用と言っているのです」

「コーヤンは得意げに言いました。



「あーっ、あーっや、コーヤン。

これを日本中に広めれば、

日本の夏は暑くなくなり涼しくなるわー」

「なになのよ。

またにそっごいひいよなのです。

ですからわたしは

コーヤを植えるのです。

町中に、いえ日本中に。

そして地球をコーヤでひいひいっ

っつきに地球をしたらりやっっ」

「なにっ？ したらりやっっ」

剛世くんが涼子ちゃんを

聞き返しました。

「ごんごえ、間ちがえました(あは)。

したらりやっっです、新緑。

コーヤのグリーンは

そりやあきれいでいますよ。

ひいひいっやひいっ

わかっていただけましたか」

じょうせん さよう 蒸散作用!



「なんかあやしいけどまあいいか。わたしは涼子。この子は剛也。」

「ゴーヤのカーテンを作りましょう！」

「わかっていただけましたか！(しめしめ。最初の作戦、まずは成功。でも食べられないように注意しないと)」

「ゴーヤン、何か言った？」剛也くんが聞きました。

「いえいえ、なんでもありません(あせ)。それでは始めましょう！」

1

種を水につけます

「まず種のがった先たん部分(ぶぶん)をカットします。」

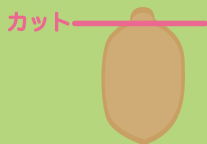
そしてよりぎにティッシュなどを

しって水で「タタタタ」

種をその上(うへ)にねかせます

「へー」

「1週間(いっしゅうかん)〜4日(よっぴ)白い根(ね)が出てきます」



「白い根(ね)が出たひ

種(たね)をポットに

入れ(い)ましょう。

白い根(ね)を下(した)向き(むき)で、

1週間(いっしゅうかん)ほど

芽(め)が出(で)ます」



2

ネットを張ります

「あらかじめネットを張(は)っておきましょう。

美しく快適(かいてき)な

グリーンカーテンを作るには

最初の設計(けいけい)がとて大切(たいせつ)です。

ネットはペランダから

張(は)ることにしましょう。

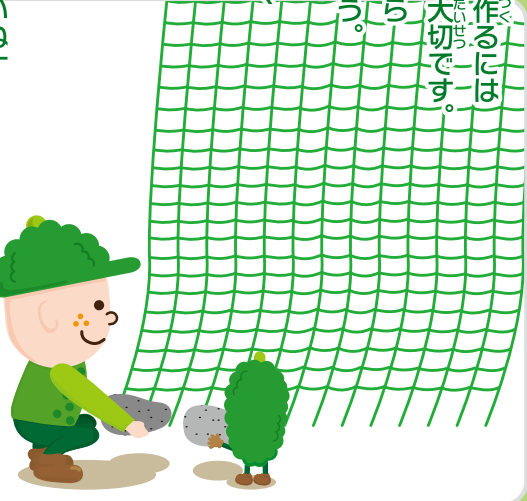
わたしたちゴーヤは

ひもなどを伝(つた)わって、

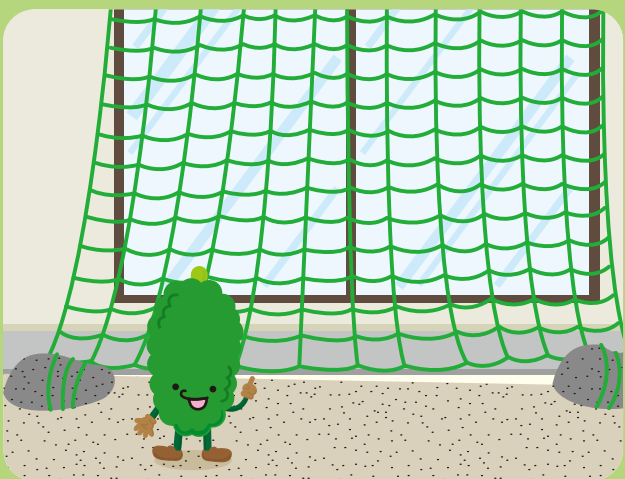
上(うへ)へ上(うへ)のびて行く

特性(とくせい)があるので

「ネットを(こ)に



「風(かぜ)でゴーヤがゆれてガラスに当(あ)たってわれることもあるので、ネットはガラスからはなして(は)なして(は)なさいね」



3

なえを植えます

「芽(め)が出て2週間(にしゅうかん)くらいたつと

手のひらみたいな形(かたち)の本葉(ほんは)が出てきます。

「ここでいよいよ植(う)えかえます」



「10センチから

80センチの

間(あいだ)をあけて

なえを植(う)えて

行き(い)きましょう」

3人はしんちようにグリーンカーテンが家(いえ)をおおった時のことを

想像(うさう)しながらゴーヤのなえを植(う)えていきました。

「涼子(りょうこ)ちゃん、この夏(なつ)は快適(かいてき)にゴーヤがのびるかもね」

「ではこれから何人だ
 日本中にグリーンカーテンを
 広めて行くつもりですわー」
 コーヤンが涼子ちゃんを剛世くんと言いました。
 「あたしはいいわ。きもち味ないっ」
 自分の家だけじゃいじゆいばど」
 剛世くんがわすちをいじゆいばど言いました。
 「なにをいじゆいばど」
 地球のためなのですよ」
 コーヤンも続けて言いました。
 「でもUNICEFの
 じいちゃんに会って
 やるのっていいわ」
 「UNICEFを使いなさい」
 「UNICEF」
 涼子ちゃんも剛世くんは
 声をそろえて「コーヤンに聞き返しました。」



「取材に来てもらいますよ。
 グリーンカーテンは
 じいちゃんもいじゆいばど」
 「なに、こい... こいんじやない。
 わたしスカウトされちゃうかも...」
 「でも来てくれるかな?」
 「じゃあUNICEFがいじゆいばど
 言えなさい」
 涼子ちゃんも言いたお、
 「UNICEFはじゃあUNICEF
 なのよ」



「なに、UNICEFは植物ですか、動物ですか?」
 「はい、UNICEFは植物ですわー」
 「なに、UNICEFは植物ですか、動物ですか?」
 「はい、UNICEFは植物ですわー」
 「なに、UNICEFは植物ですか、動物ですか?」
 「はい、UNICEFは植物ですわー」
 「なに、UNICEFは植物ですか、動物ですか?」
 「はい、UNICEFは植物ですわー」
 「なに、UNICEFは植物ですか、動物ですか?」
 「はい、UNICEFは植物ですわー」



ゴーヤンはテレビにひっぱりだこ。様ざまな番組の中でゴーヤンはまじめにグリーンカーテンのすばらしさを語り続けました。

そのかいあってグリーンカーテンが日本中に広まっていきました。

ゴーヤンの人気もうなぎ上り。「最初は食べられるって聞いてびっくりしたけど、

地球のくらしは悪くないな。みんなちやほやしてくれるし、

お金はたくさん入ってるし。でもゴーヤ星に帰ったら

おいらはしがない家来のひとひりませひひり。もう帰りたくないな…。

そうだ、うまい考えがあるぞ…。」



次の日、ゴーヤンは

ゴーヤ星の王様に通信をしました。

「王様、」報告します。地球をゴーヤでうめつくす

ことには成功しそうですが、この星の住人はなんと

われわれゴーヤを食べる習慣があることがわかりました。じつはわたしも命をならわれています…」

「ガチャ」その時、ゴーヤンのいる部屋のドアが開いて人間が入って来ました。

「あ、追っ手がきました。ああ、食べないで〜やめて〜」通信がとれたあと、

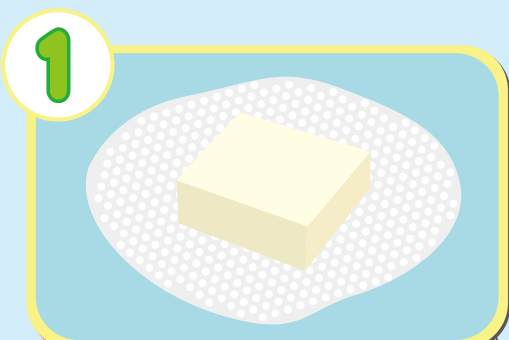
何もうつっていないモニターを見ながら王様はブルブルふるえていました。

「地球とはなんとおそろしい星だったのだ。ゴーヤンには悪いことをした。

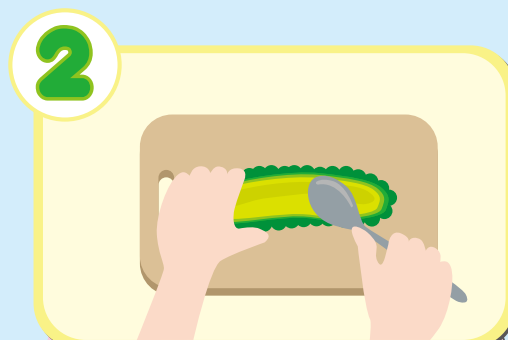
これからしんりやくする時はじゅうぶん気をつけなにと…」



ゴーヤチャンプルーの作り方



1 とうふをキッチンペーパーでくるみ、重しをして水切りをします。水切りできたら2.5cm角くらいにカットしておきましょう。



2 ゴーヤを水あらいし、たて半分に切り、種とワタをスプーンでかきだします。3~4mmのあつさにスライスします。



3 タマネギ、ぶた肉も同じくらいの大きさにカット。フライパンにゴマ油を熱し、タマネギ→ぶた肉→ゴーヤの順にいためます。

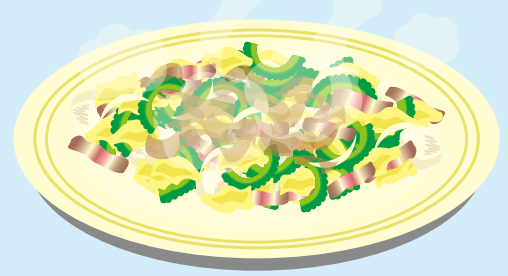


4 全体に油がまわったらとうふを加え、しょうゆとみりんを入れ、いためます。いため終わったら皿にとります。



5 フライパンにたまごをときほぐし入れ、半じゅくじょうのいりたまごにします。皿の④をもどしてまぜます。

6 **できあがり♪**
皿にもりつかつおぶしをふわっとかけて、さあ、できあがり！

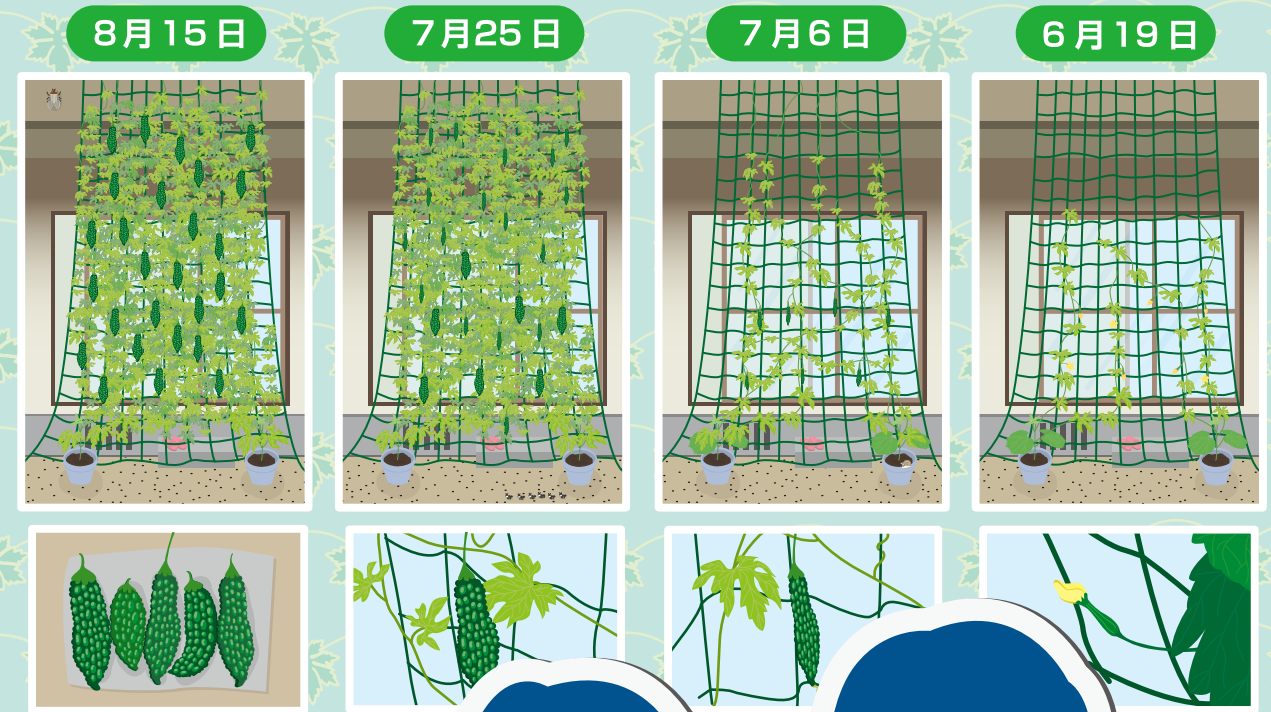


材料(2人分)…ゴーヤ:1/2本・ぶた肉(うすぎり):100g
たまねぎ:1/4こ・もめんどうふ:1/2丁 たまご:1こ ゴマ油:大さじ1ぱい
しょうゆ:大さじ1と1/2ぱい・みりん:大さじ1と1/2ぱい・かつおぶし



「ゴーヤチャンプルー、どういったのですか？」
「本番の時間ですよ」
「このチャンプルーのひかえ聲。入ってきた人たちはテレビ局のスタッフだったのですか。」
「あーあー、ごめんなさいね」
「今日の番組は料理ショーです。」
「今日のゲストは、いま大人気のゴーヤチャンプルーの会社の女性にしてはしゃいがかいわい」
「ゴーヤは笑顔でゴーヤ料理を作りはじめました。」
「フフフ、じゃあじゃあ王様は地球をまわらぬんだらうござい。おごは食べられたらうございならうござい。うんうん。」
「ちよこ王様には悪いが、おごはうござい。」

いっぽう、涼子ちゃんの家はスクスクと成長していました。
 5月、6月、7月、そして8月。
 「今年の夏はグリーンカーテンのおかげで快適だねえ」
 「夜にエアコンを使わなくても暑くないね」
 涼子ちゃんの家族にグリーンカーテンは大好評です。



そして日本中では様々な
 グリーンカーテンがたん生していました。
 学校で、オフィスで、ふつうの家でも。
 形もそれぞれとてもユニークです。
 日本の電力消費量も昨年より
 グンと減らすことができました。

それから数年、剛世くんも涼子ちゃんも中学生になりました。

「最近ゴーヤン、テレビで見なくなりましたよね」

「ふん、どうせもういない」

そのころゴーヤンは丘中にかくじた

宇宙船をひとつで整備していました。

「やれやれ、芸のない素人ではやっぱりダメだな。

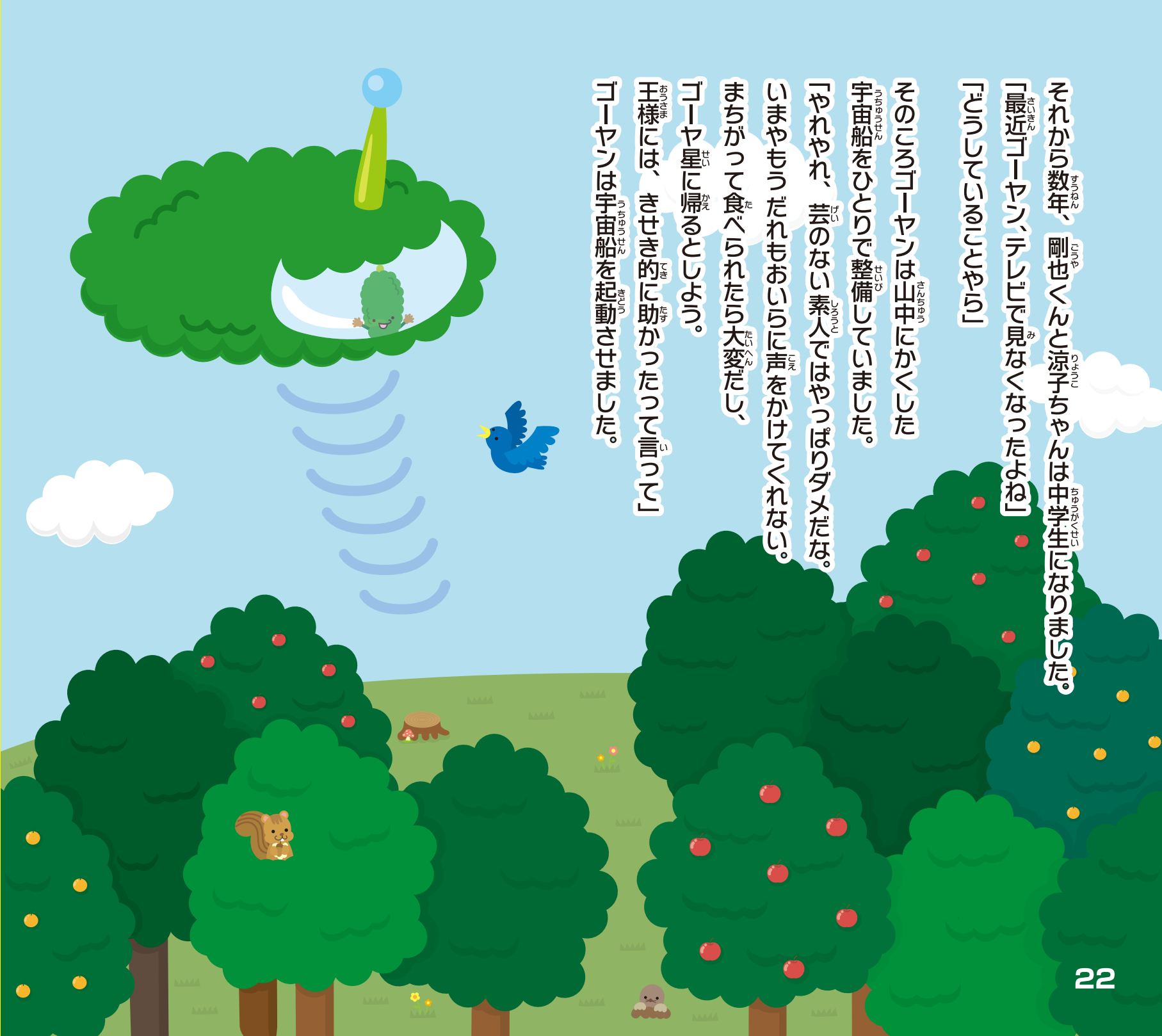
いまやもうだれもおいらに声をかけてくれない。

まちがって食べられたら大変だし、

ゴーヤ星に帰るとしよう。

王様には、きせき的に助かったって言うって」

ゴーヤンは宇宙船を起動させました。



ゴーヤンはゴーヤ星へ
帰ってしまいました。

ゴーヤンが広めたグリーンカーテンは

日本中へと広がって定着しました。

エネルギー消費量も

毎年少しずつ下がって行きました。

「今年の夏もすてきなカーテンを作るわよ」

「うん、手伝うよ」

涼子ちゃんの言葉に剛世くんは

「ふん、どうせもういない」





さく・・・ふくたにまさし
え・・・こむりな
監修・・・小澤紀美子
発行元・・・環境省